

令和4年3月7日

産業開発青年隊同窓会会員各位
ホームページを閲覧されている方々

産業開発青年隊同窓会長 鈴木 浩明

皆様方、ご無沙汰をいたしております。いかがお過ごしでしょうか。

コロナ禍の中、静岡県でも蔓延防止等重点措置を実施すべき期間が3月21日まで延期になりました。またロシアがウクライナに軍事侵攻をし、様々な影響が出てくるのではないのでしょうか。このように先の見通しが不透明な中ではございますが皆様いかがお過ごしでしょうか。

私たち産業開発青年隊は、綱領「一つわれらは、産業開発に呈して人類平和のために尽くさんことを誓う。一つわれらは、友愛と団結をもって理想の社会を建設せんことを誓う。一つわれらは、不屈の信念をもって創設の大業を達成せんことを誓う。」と朝な夕なに富士を仰ぎながら、誓いを立て、教育を受けてまいりました。創設者の長澤先生は、この綱領は、中央訓練所での教育機関だけではなく、終了してから社会に羽ばたいてからが本当の実践であると、口から泡を飛ばしながら、私たちに対し指導されてきました。

産業開発青年隊が閉所となり約四半世紀が経過しました。昭和38年の修了生の方が80歳程度、昭和48年度の卒業生の方が70歳程度、昭和58年度の卒業生の方が60歳程度となり閉所時の平成7年度の方が52歳ほどになります。昭和56年に長澤先生、昭和59年に吉留先生が退官され、産業開発青年隊の綱領は変わることはありませんが、教育方法に変化が出てきたことは否定できません。これからの産業開発青年隊としての活動について、世代間の産業開発青年隊像が異なることも理解していかなければなりませんし、年齢や社会的地位などのことも様々勘案していかなければならないと思います。

そのような中、わたくしは産業開発青年隊同窓会長として、修了生の皆様に問いたいことと思います。現在の混とんとした社会情勢の中、わたくしたちが今やらなければならないこと、できることは何でしょうか。

産業開発青年隊同窓会として、地域や社会に還元していくこと、貢献していくことがあるのでしょうか。

ぜひお答えをいただきたいと思います。

お忙しい中ではあると思いますが、お一人でも多くのご意見を頂戴できたらと思います。よろしく願いいたします。